

令和6年度 第1回末野原地域会議 会議録

- 日 時 令和6年4月18日（木） 午後7時から8時30分
■場 所 末野原交流館 2階 第1中会議室
■出席者 委 員 : 16名
末野原交流館 : 相原館長
事務局（上郷支所）：下川支所長、神谷副支所長、小船担当長

■次 第

- 「豊田市民の誓い」唱和
- 1 支所長あいさつ
 - 2 委嘱状交付、委員自己紹介
 - 3 地域自治システムと地域会議の役割について
 - 4 地域自治システムに関する末野原地域の取組について
 - 5 地域会議正副会長選任及び上郷地域バス運営協議会委員選任
 - 6 地域会議だより No44 の発行について
 - 7 事務連絡

■議事（要約）

- 1 支所長あいさつ 省略
- 2 委嘱状交付、委員自己紹介 省略
- 3 地域自治システムと地域会議の役割について

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・市長メッセージ動画を視聴・地域自治システムと地域会議の役割について事務局から説明 |
|--|

【意見・質問】

（委員）選挙について、後援会の入会はよいのか？

（事務局）個人としての入会することは問題ない

（委員）地域会議委員の役割は資料に示してあるが、地域会議で検討して決まったことを実現するために、どのように地域に広めていくのか、どのように自治区へ持っていくのか、発展させていくのかなど、地域会議委員としての地域へのアプローチの仕方がイメージできず、まだよくわからない。

（事務局）地域との連携や自治区（区長）との情報共有は、これまでもどのように進めるとよいのか悩みながら進めている。2回目以降の会議に、地域を知ることに加えて、地域のみなさんの意見集約をどうするかを踏まえて進めていきたい。地域での実現する方法については手探りで進めているため、今後みなさんの知

恵をいただきたい。

(委員) 今までの地域会議のやり方等で、新しいことやよかったところ、反省点などを振り返り、今期の委員のみなさんに教えてもらえてもらえるといいのではないかと。同じ制度を運用する中で、WE LOVE 条例ができ、見直しをするなど試行錯誤をして変化をしていると思うが、変化をしている中で、こうしたらよかった、などの事例を参考にしていけばよいと思う。

(委員) 過去10年で、地域会議からの提言など、自治区にこういうことをやっていきませんかという案を出していると思う。その案が、実際に進められたという事業の事例があると、私たち委員はわかりやすいと思う。

地域会議として、こういったことを進めて欲しいんだと、地区区長会やコミ会議または自治区へ行って、具体的なことを説明して実行してもらおうという、ひとつのパイプをもつことも必要だと思う。現実絵に描いた餅にせず、進めていかないと意味がないのではないかと。

地域会議の会長等が、地区区長会などに出向いて、地域会議の案を出して区長会で協議していただくこともひとつの方法だと考える。

(事務局) 次回の地域会議では、第9期の委員を含めて振り返りをしたいと思っている。これまでどうであったか、こうするとよかったなどを振り返りながら、第10期の地域会議を進めていきたい。

(委員) その際に、事例発表をしていただきたい。例えば10年間の成果や、地域会議の提言の結果について、できたこと、できなかったことは何か、事例発表を聞き、今後活かしていきたい。

(事務局) みなさんのご意見はもっともであると思う。事務局の説明にあったとおり、次回以降で、みなさんと知恵をだして進めていく。

過去10年の実績とのことであったが、地域自治システムは合併を契機にできたので、20年近く経過しており、実は2年前に見直された。見直し前は、地域会議で事業進めたり、わくわくの審査があったりと地域会議委員が忙しく、考える時間が足りないとの課題から、地域会議委員の役割が諮問答申と提言に純化された。

提言は、地域会議から地域としてこうなるとよいのでは、という地域課題の解決策を市長へ提案して、具体的な事業内容は市で考えるもので、このやり方になって、1期2年が終わったところである。そのため、地域会議委員の役割見直し後の実績はあまりない。末野原地域会議は、昨年度提言しているので、提言を受けて令和6年度どのように事業をするかは報告できるが、報告できる実績があまりないということをご理解いただきたい。

数年前までは、地域会議と行政で事業を実施していた。この役割の見直しにより、提言に基づき事業を実施する場合、提言としては共働によるまちづくりの視点で、市に全てやってもらうのではなく、課題に対して地域ができることを踏まえて市に対策の検討を提案するものである。その議論の中で、地域としてできることについて、誰に投げかけて、誰がやるのか、そこをどうするかがとても難しいと感じている。

実情として、地域会議 20 年近くたっているが、地域の認知度が低いことが課題である中で、事務局としては、地域会議だよりを自治区回覧していただいたり、交流館祭で紹介するなどしている。それも踏まえて、今後、地域の誰になげかけて、誰がやるのかななどを協議していきたい。

(委員) 役割とシステムは理解できた。今回の説明は全市のやり方で、この地域に落とした時の仕組みと役割が、今回の説明では具体化されておらず、わからない。前任者に聞いたときに、はっきりきけなかった。ということは、具体的なことがわからないから、進められないというのが要因解析ではないかなと思う。これまで、地域会議委員が自治区に戻ったときの、区長と委員のコミュニケーションは、自分の自治区では、かかわりと話し合いはなかった。末野原地域会議における各委員が、地域での具体的なやり方進め方について、さらに説明してほしい。

(事務局) 第 9 期地域会議の 2 年の進め方等については説明できる。このパンフレットには地域ごとの記載はなく、各地域のやり方で、どのように進めてもかまわないということになる。

諮問答申は、市長からの諮問があれば必ず答申してくださいという必須のもので、提言は必須ではなく、何かあればできるという権利のようなもの。この提言を議論する場は地域会議ということは決まっているが、どうやって創り上げていくかは決まっておらず、また、地域の方の意見を集約する方法は決まっていない。

(委員) 地域のやり方が決まっていない点が問題ではないだろうか。

(事務局) 市町村合併があり、地域ごとの様々な事情があってできたシステムなので、統一的なルールはない。今後の地域会議で、そういったところを議論する機会がでてくると考えている。

(委員) ぜひやってほしい。今までと同じやり方ではいけないと思う。

(委員) 自身は自治区の諮問委員であるが、自治区へ諮問してもなかなか答申いただけない。自治区も多忙であるため、答申がいただけていない状況である。今回の地域会議で、自治区へ投げかけてもやってもらえない事業を考えても、実現できないと思うので、今後、自治区とのパイプ（繋がり）をつくっていかないといけないと感じる。

(委員) それが仕組みであり、自治区に落とした場合の仕組みである。地域会議と自治区とのつながりができ、実行できたら、次へ次へとつながって行くと思う。

(委員) 説明パンフレット 4 ページの図について、地域から地域会議へ矢印（→）があるが、自治区と地域会議のコミュニケーションが良くないのが課題だとすると、両方向に矢印（↔）がないとおかしいのではないか。

(委員) 自身は委員 2 期目であるが、ご指摘いただいたように、地域の意見をすくいあげるのが難しかった。仕組みとしては、自身の認識としては、地域の問題点を集めて、それを市に対してこうしてくれと言っていくことが仕事だと思っている。問題点を集めて、地域にやってくれというものではない。ただ、そのコミュニケーションがうまくとれていないように感じた。

- (委員) 地域会議と市の中に自治区を経由した矢印(→)があるとよいと感じた。
- (委員) 自身が会議で意見をしても、この意見が自治区として必要なのか、自治区のためになっているのかという思いはあった。
- (委員) タイムリーに事業等を進めたいと思ったときに、なかなか現実には難しい。今後、地域会議で方法を議論していけばいいのでは。その中で、自治区との結びつきを考えていけばいい。
- (委員) どんな図でも構わないが、今回意見があったようなことがしっかりできるような図であればよい。
- (委員) 自身の理解は、この図で、地域会議のみなさんは、地域(各自治区)からの代表として意見を集約して市へ提言、図で示す地域からの意見は自治区長からの意見という理解である。
- (委員) 「地域」は必ずしも自治区だけの意見ではなく、広く地域に住んでいる人ということ。
- (委員) 私達が地域の代表、自治区の代表とのことであるが、現実にはそうっていない。地域会議委員が評議員会への出席なども一度もない。そうであれば自治区長や評議員とのパイプを持って、地域課題の洗い出しや、この地域でどうやって展開するかなどの話であれば納得できるが、そのパイプが全然ない状況である。
- (委員) 地域会議委員の役割の見直しの際に、大変さを軽減していくという説明があったが、軽減した役割の中で我々は動かないといけないけど、それではいけないという逆のご意見ということか。地域のことをもっと吸い上げ、地域会議に持ってくるということを求められているということか。
- (委員) そのような意味ではない、地域会議の立ち位置がわからないということである。役割が具体的に示されていないから、その整理が必要だと考える。
- (委員) 今後進めていく上で、みなさんとやり方等を協議し、こんなやり方がベストであるなどと、会議が進んでいくという理解でよいか。
- (事務局) 今回の説明は概要になるので、パンフレットの図についても、主なイメージとしてとらえていただけるとよい。今後、10期委員のみなさんと、どのように進めるとよいか協議する時間は取らせていただく。
- (委員) あいまいのままであると、今回のような意見になってしまう。具体的に示して欲しい。
- (事務局) 次回以降、説明の時間をいただきたい。
- 委員の選び方も地域によって差があり、上郷・末野原地域は自治区の人数バランスを重視した選び方である。今後、子ども達に関する課題であればPTAや学校、高齢化に関する課題であれば民生委員や社会福祉協議会などに意見徴取したらどうか、などの話題も出てくると思う。もしかしたら、自治区との調整だけでは足りないかもしれないなど、そこも含めて協議したい。柔軟な対応は難しいかもしれないが、みなさんから知恵をいただき、進めていきたい。

4 地域自治システムに関する末野原地域の取組について

次の３点について、事務局から説明

- ・令和５～６年度の地域会議の主な取り組みの説明
- ・末野原地域の地域課題解決事業の説明
- ・令和６年度末野原地域のわくわく事業団体の紹介

5 地域会議正副会長選任及び上郷地域バス運営協議会委員選任

地域会議正副会長及び上郷地域バス運営協議会委員について、いずれも満場一致で次の委員を選任した。

- ・地域会議会長：深津貴彦委員、副会長：富重時康委員
- ・上郷地域バス運営協議会委員：深津錦治委員、市川政秀委員

6 地域だより No44 の発行について

- ・地域会議だより No44 の掲載内容と５月区長会での回覧依頼について事務局から説明。

7 事務連絡

以下の事項について事務局から情報提供。

- ・今後のスケジュールについて

◆次回会議開催

◇第２回地域会議

と き：令和６年５月１６日（木） 午後７時から

ところ：上郷交流館 ２階 ふれあいホール